※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０４

令和８年度　学デジタルアート科

教科	学デジタルアート	科目	(学)映像表現入門	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	なし						
副教材等	独自教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では､実際に一人一台一眼レフデジタルカメラを使って目的に適した写真を撮影ができるように、デジタルカメラの基本的な操作方法を基に、表現方法を工夫し、最終的にはパソコンとフォトレタッチソフトを使って作品制作を行います。
スマホのカメラ機能のようにシャッターボタンを押すだけではない､一眼レフカメラならではの奥深い写真撮影を思う存分体験することが出来る授業です。何枚も試行錯誤しながら撮影して、自分が納得できる、その“1 枚”を作り出す努力を積極的にしてほしいいと思います。
校庭や校外に出て、学んだ知識を使って実際に写真を撮影する実習が中心の科目です。
長期休み（前期：夏休み）（後期：冬休み）には写真撮影の宿題もあります。
写真という技法を使って、自己表現をする「正解が１つではない問題に取り組む」エンパワメントタイムの授業です。

2　学習の到達目標

・カメラの基本知識である露出の仕組みや、シャッタースピード優先や絞り優先、露出の補正、流し撮りなど、デジタルカメラの操作方法と撮影技術を身につける。
・パソコンとフォトレタッチソフトを使って写真編集とプリント技術によって、自身の感性を表現できる力と他者の作品を評価し判断する力を養う。
・自分が意図する自己表現に合う作品を制作しようとする態度、他者の前で主体的に作品発表できる態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	● 写真を撮影するために必要なシャッタースピードと絞りの関係を知った上で、露出を制御する仕組みを理解する。 ● カメラの基本的な操作方法を修得した上で、写真の構図や撮影手法を身につける ● フォトレタッチソフトを使って色補正やトリミングなど基本的な写真編集とプリントの知識と技術を身につける。	● 自分が表現したい写真のテーマを考えた上で、意図した写真を撮影するための被写体、構図、露出の設定などを判断して撮影する。 ● 撮影した写真を自分の意図に合うようにフォトレタッチソフトで画像処理することで表現し、作品を完成させる。	● 構図や露出など何回も試行錯誤しながら、意図した表現の写真を主体的に撮影しようとしている。 ● 撮影した写真をフォトレタッチソフトで試行錯誤や工夫をしながら、意図した表現の作品を完成させようとしている。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
半期	写真とカメラの基本	○写真の仕組みと一眼レフカメラの種類について学ぶ。 ○一眼レフデジカメの絞りやｼｬｯﾀｰｽﾋﾟｰﾄﾞ、ISO 感度など学んだ知識を、実際のカメラを使って設定し、シャッターを切って、ブレない、ピントの合った写真を撮影するという基本操作を学ぶ。	a: 写真とカメラの仕組みを理解した上で、実際に一眼レフカメラを適切な設定をし、写真を撮影することができる。 b:撮影方法や設定の値を考えて、基本である「被写体がブレずにピントが合った写真」を撮影することできる。 c:先生の説明をしっかり聞いて、指示された操作をし、一眼レフカメラでの写真撮影を楽しみながら積極的に取り組もうとしている。	プリントと作品写真	作品写真	プリント(振り返り)と撮影した全写真
	一眼レフカメラの活用について（基本編）	○シャッタースピードによる表現技法 躍動感ある被写体がブレた写真を撮影するためには遅いｼｬｯﾀｽﾋﾟｰﾄﾞを、時間が止まったような一瞬を切り取った写真を撮影するためには速めのｼｬｯﾀｰｽﾋﾟｰﾄﾞ	a: 一眼レフカメラを大切に正しく使い、ピントの合った写真を撮ることが出来る。その上で、ｼｬｯﾀｽﾋﾟｰﾄﾞを設定することができる。 b:ｼｬｯﾀｰｽﾋﾟｰﾄﾞの値を設定し、それぞれ意図した表現の写真を工夫をして、撮影することができる。 c: ｼｬｯﾀｰｽﾋﾟｰﾄﾞを試行錯誤して調整しながら意図した表現の写真を撮影しようとしている。	プリント 作品写真	作品写真	プリント(振り返り)撮影した全写真

※令和４年度以降入学生用

	一眼レフカメラの活用について（基本編）	○絞りによる表現技法 ピントが手前から奥まで全体にあった（被写界深度の深い）写真を撮るために絞りを絞り、ピントが一部分にだけあった（被写界深度の浅い）写真をとるためには絞り解放	a: 一眼レフカメラを大切に正しく使い、ピントの合った写真を撮ることが出来る。その上で、絞り値を設定することができる。 b:絞り値を設定し、それぞれ意図した表現の写真を工夫をして、撮影することができる。 c: 絞り値を試行錯誤して調整しながら意図した表現の写真を撮影しようとしている。	プリント 作品写真	作品写真	プリント（振り返り）撮影した全写真
	一眼レフカメラの活用について（応用基本編）	○流し撮り、露出補正、ズームなどの応用的な撮影技法を学ぶ。 ○三分割構図など基本的な構図やピントを合わせる場所など、より自己表現に合った写真を撮影するための表現方法を学ぶ	a: それぞれの撮影技法を理解した上で、必要な設定をして写真をとることができる。 b:それぞれの撮影技法や構図をどのような場面で使えば効果的か理解し、適切な場面でそれらの技術や知識を使って写真を表現することができる。 c: その技法を使った場合と使わなかった場合の写真を撮影し、比較しながらその技法を習得し、使いこなそうとしている。	プリント 作品写真	作品写真	プリント（振り返り）撮影した全写真
	写真の作品作り	○学んだ知識を使って実際に写真を撮影し、技術を身に着ける。自由撮影	a: それぞれの撮影技法を理解した上で、必要な設定をして写真をとることができる。また自分が撮影したいテーマや被写体を自分で見つけることができる。 b:自分が表現したいものを、いままでに学んだ知識と技術を駆使して、撮影することができる。また撮影した写真を確認して、フィードバックすることにより、より完成度の高い 1 枚をとることができる。 c: 写真を撮るという目的をしっかり持って、被写体としっかり向き合いながら積極的に授業時間内は写真を撮ろうとしている。	作品	作品	写真枚数

※令和４年度以降入学生用

	フォトレタッチソフトによる画像処理	○ﾌｫﾄﾚﾀｯﾁｿﾌﾄの基本的な知識と技術	a:ﾌｫﾄﾚﾀｯﾁｿﾌﾄを使ってトリミングや色調補正など画像処理できる。 b:写真のテーマや伝えたいメッセージを考えた上で、フォトレタッチソフトを使ってそれらにあった表現を画像処理ですることにより、自分が意図した写真に作り上げることができる。 c:意図した表現に近い処理をするために試行錯誤しようとしている。	プリント作品写真	作品写真	プリント（振り返り）処理前と処理後の写真
	組み写真の作品制作と発表	写真の作品制作及び発表	a: 長期休暇中に今までの知識と技術を活用して 50 枚以上写真を撮影し、組写真作品を制作し完成することができる。 b:組み写真作品を通して自己表現することができる。自分が意図した写真表現で発表できるように、写真を選択し、適切な画像処理をし、相手に伝わるようにわかりやすく発表することができる。 c:課題として長期休暇中に写真を撮影しようとする。自分の表現したいものを相手に伝わるように工夫して発表しようとしている。	組み写真作品	組み写真作品と発表	組み写真と発表とプリント（振り返り）

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度